

(2) 社会環境特性

1) 人口

① 常住人口

当該ブロックの大部分を占める大阪市西淀川区は、近年、工場跡地などでの住宅開発が進んでいます。平成22年国勢調査による常住人口は、97,504人で、平成17年国勢調査の95,662人から1,842人増（約1.9%増）、65歳以上が2,691人増（約15.0%増）となっています。

西淀川区の人口推移を大阪府と比較すると、大阪府では昭和35年の約550万人から昭和50年には約828万人に急激に増え、その後、平成22年に887万人と緩やかに増加しているのに対し、西淀川区では、昭和40年の121,246人をピークにその後、減少に転じ、昭和55年以降は、9万人台で推移しており、平成7年から緩やかな増加傾向です。

年齢階級別には0～14歳が減少し、65歳以上が増加してきていますが、西淀川区内の地区別で見ると、平成22年の国勢調査では、御幣島、千舟で15歳未満の割合が15%以上となるなど、高齢化が進行する一方で近年の住宅開発などにより若年層が局所的に増加しています。

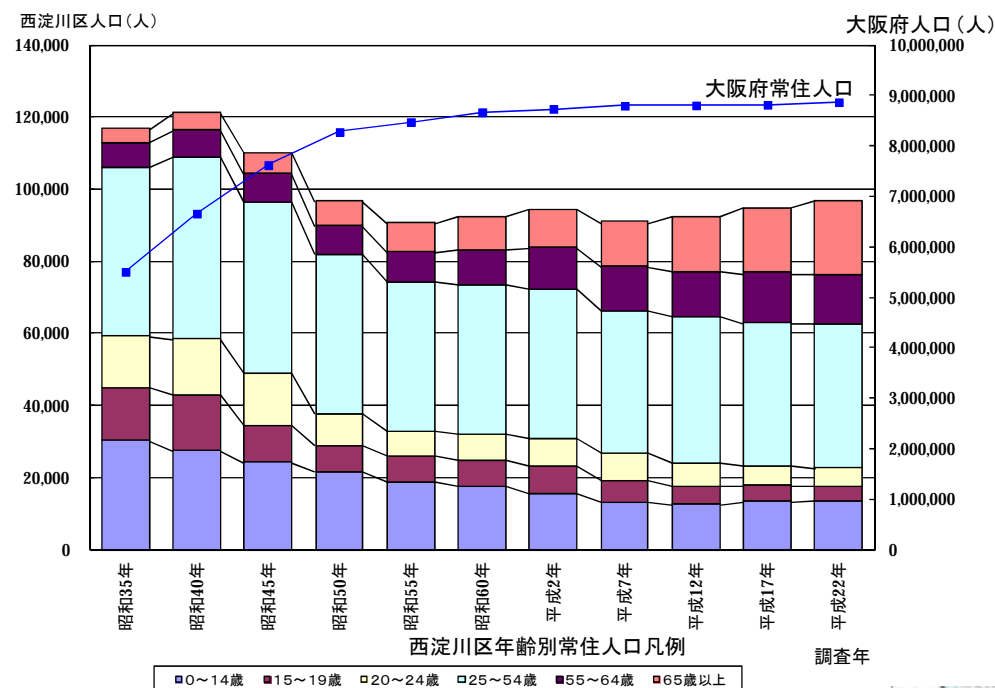


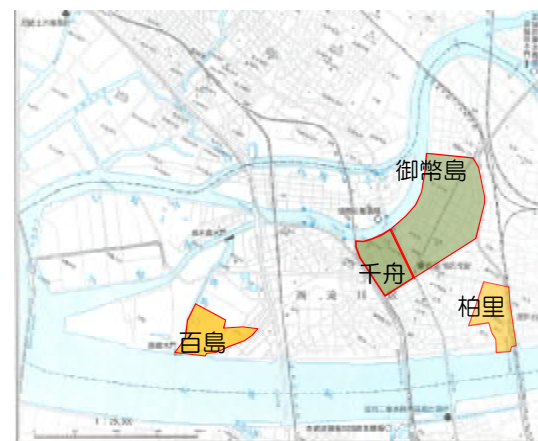
図 1.19 大阪府の常住人口と西淀川区の年齢別常住人口

出典：
大阪府常住人口：大阪府統計年鑑
西淀川区年齢別常住人口：
昭和35年～平成12年：大阪市時系列統計表、
平成17、22年：国勢調査

WHO（世界保健機構）1956年の定義
総人口に占める65歳以上の割合
高齢化社会：7%に達した社会
高齢社会：14%に達した社会

表 1.8 人口に占める15歳未満と65歳以上の割合

地区	15歳未満	65歳以上
柏里	8.8	27.7
花川	13.0	22.8
歌島	12.8	21.4
野里	11.7	19.4
姫島	14.6	19.9
福町	0.1	0.2
竹島	14.1	20.8
御幣島	14.8	21.2
千舟	18.4	16.2
大和田	15.1	14.0
大野	13.9	25.0
百島	9.8	24.0
佃	8.8	26.7
出来島	13.1	21.7
中島	14.1	21.9
西淀川区	13.1	20.6
大阪府	14.0	20.6



緑：地区人口に対する15歳未満の割合が15%以上
橙：地区人口に対する65歳以上の割合が25%以上
※平成22年西淀川区統計資料結果に基づく。

② 昼間人口

昼間人口は、昭和40年の131,073人をピークに減少し、昭和55年に一時減少に歯止めがかかったものの、平成2年より徐々に減少し、平成22年には101,005人となっています。一方、大阪府の昼間人口は、昭和60年から900万人を超え、平成22年には928万人となり、ほぼ横ばいとなっています。

西淀川区における昼間人口は、年齢階級別に見ると55歳未満が減少しているのに対し、55歳以上は徐々に増加しています。

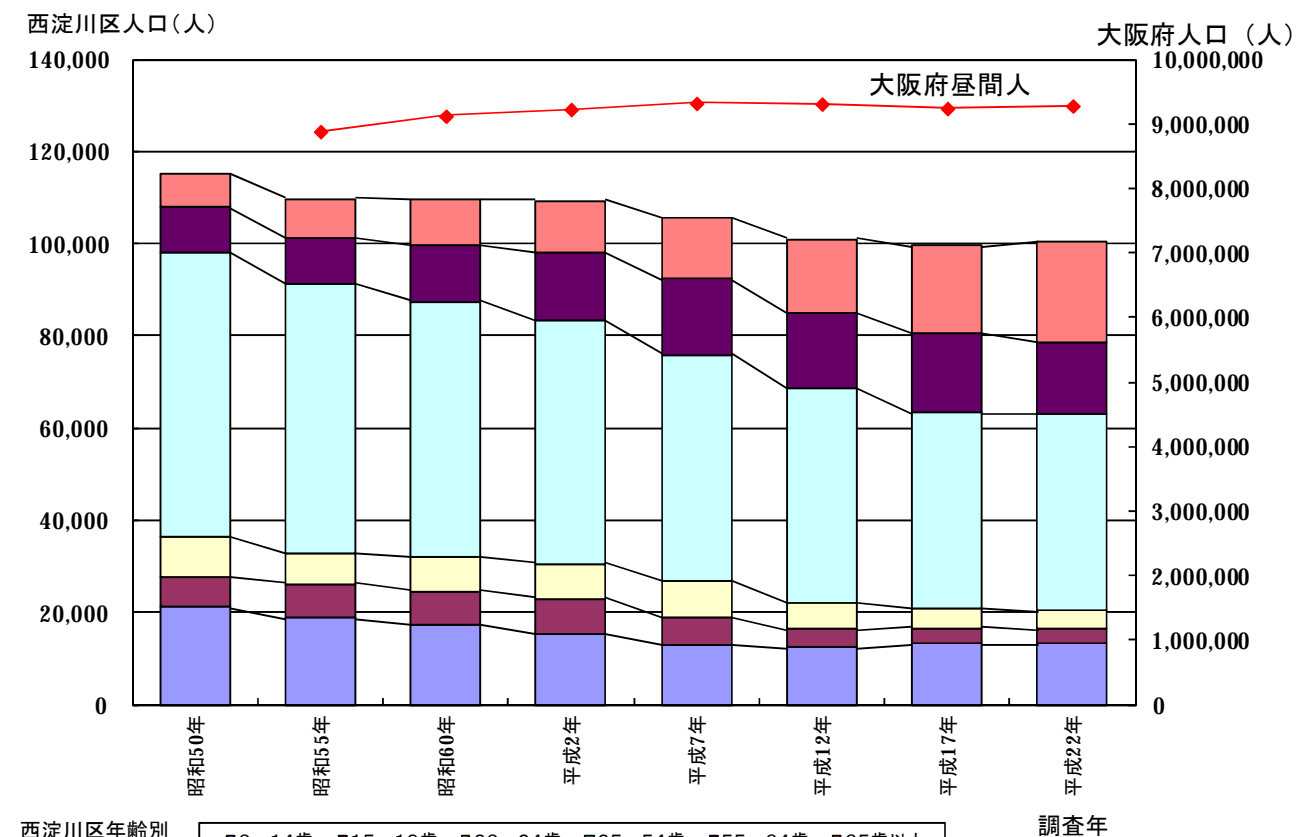


図 1.20 大阪府の昼間人口と西淀川区の昼間人口

出典：
大阪府昼間人口：大阪府統計年鑑
西淀川区年齢別昼間人口：
昭和50年～平成12年：国勢調査全国都道府県市町村人口要覧 その2
平成17年、平成22年：大阪市統計書

2) 産業

西淀川区は明治以降から近代工業が集積し、阪神工業地帯の中心となる一大工業地帯となり、重工業を中心とする工場が立地してきました。近年は住宅化が進み、数は少なくなっていますが、臨海部に大工場、内陸部に町工場が立地しています。

従業員数はこれを反映して第2次産業(特に製造業)が多く、昭和44年の73,174人をピークに減少し、事業所数は昭和56年の6,813事業所をピークに減少しています。

第一次産業就業人口はほとんどありません。

第三次産業は時代とともに事業所、従業員とも増加し、平成21年の産業人口は3万人に近づいています。特に、サービス業が増加しています。

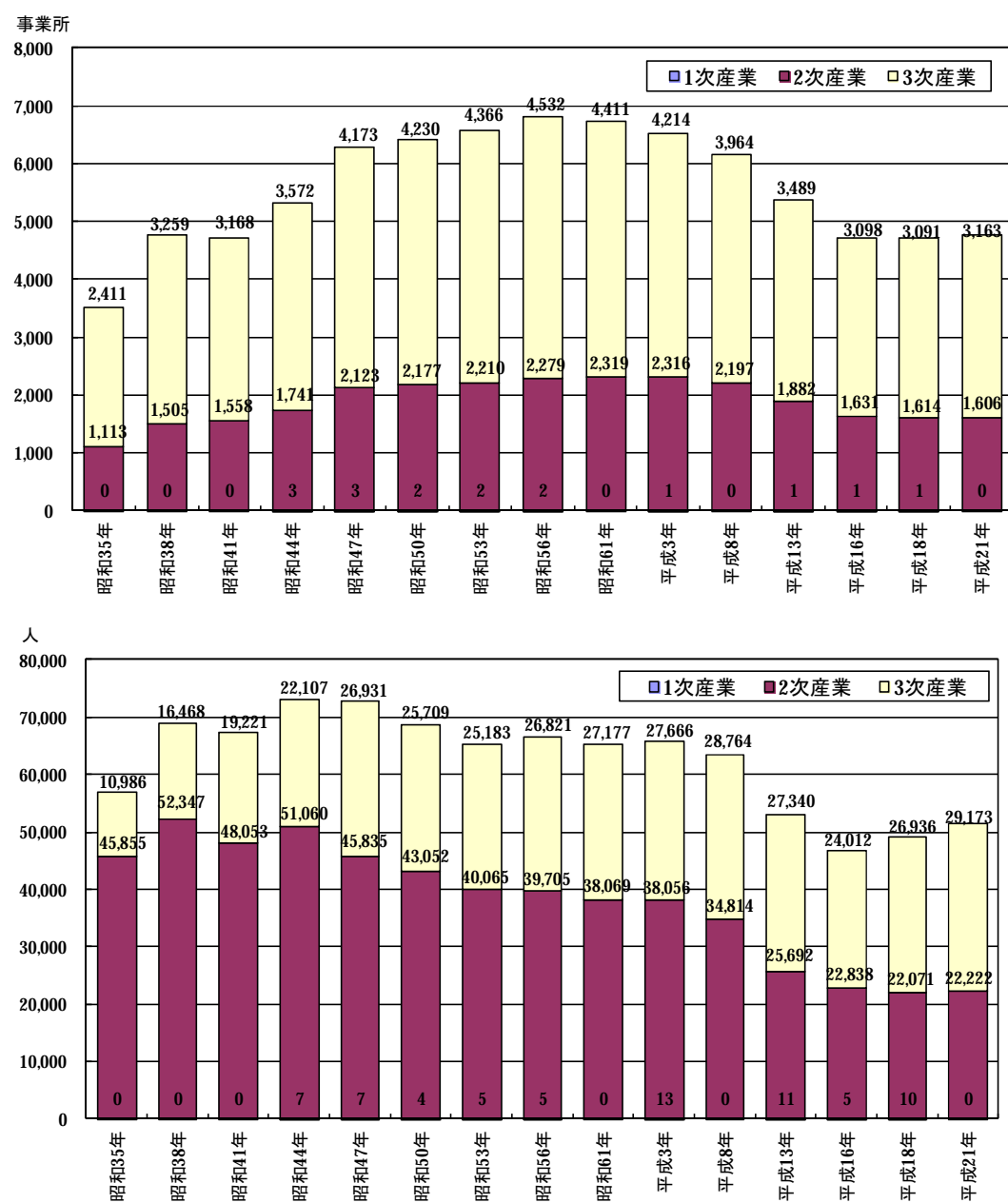


図 1.21 西淀川区の産業大分類別の事業所数・従業員数の経年変化

(備考：事業所として把握困難な、個人経営の農林漁家は計上されていない)
 出典：昭和35年～平成13年：大阪市時系列統計表 平成16年3月 大阪市計画調整局
 平成16年～平成18年：事業所・企業統計調査
 平成21年：経済センサス

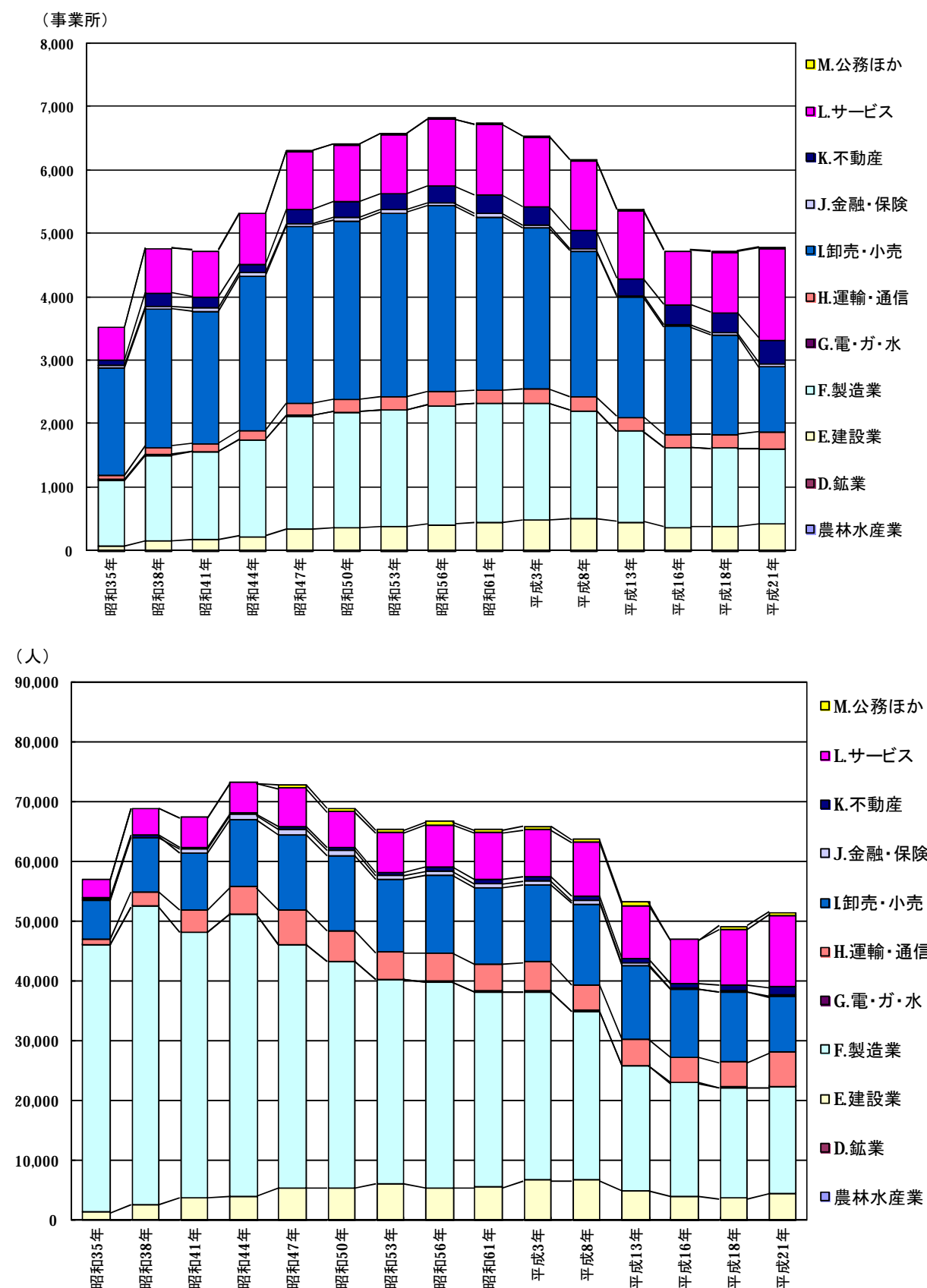


図 1.22 西淀川区の産業中分類別の事業所数・従業員数の経年変化

(備考：事業所として把握困難な、個人経営の農林漁家は計上されていない)
 出典：昭和35年～平成13年：大阪市時系列統計表 平成16年3月 大阪市計画調整局
 平成16年～平成18年：事業所・企業統計調査
 平成21年：経済センサス

① 農業

西淀川区では、江戸時代初期から幕末の約二百数十年間にかけて新田開発が行われ、米穀や、麦、大豆、野菜類、綿花を栽培していましたが、低湿地帯であったため、高波による農作物への被害が絶えませんでした。その後、大正から昭和初期にかけて都市化が急速に進行し、耕作地が減少しはじめ、昭和25年のシェーン台風による水害で激減しました。

農家戸数は昭和34年には125戸ありましたが、平成2年には1戸のみとなり、平成22年には9戸まで増加しました。

表 1.8 西淀川区の農業状況

年	農家数					農家人口 (人)	耕作地面積 (a)			摘要
	総数	自給的農家	販売農家	専業	兼業		総数	田	畑	
昭和34年	125	—	—	27	98	568	2,277	572	1,705	
昭和39年	38	—	—	12	26	187	637	60	577	
昭和45年	22	—	—	3	19	102	436	81	355	
昭和50年	8	—	—	2	6	45	174	75	99	
昭和55年	8	—	—	1	7	44	111	51	60	
昭和60年	6	—	—	1	5	34	94	53	41	
平成2年	1	—	—	0	1	不明	0	不明	不明	
平成7年	4	—	—	1	3	15	103	84	19	西淀川区、北区、東成区、西成区(各世帯数1戸)の4区合計値
平成12年	8	5	3	0	3	34	152	91	61	西淀川区、北区、旭区(各世帯数1戸)の3区合計値
平成17年	8	5	3	0	3	34	152	91	61	※
平成22年	9	5	4	0	4	25	168	90	78	※

※平成17,22年 農家数、農家人口：西淀川区、北区、東成区、旭区、西成区の5区の合計値
経営耕作地面積：西淀川区、北区、東成区、旭区の4区の合計値

平成7年以前は、全農家を対象に専業兼業別農家数を調査していたが、平成12年以降は全農家のうち販売農家のみを対象に専業兼業別農家数を調査している

備考：個人経営の農家を含むため、図 1.21、図 1.22「事業所・従業員数」第一次産業より、「農家数」「農家人口」は値が大きくなる

平成7年以降は、他区との合計値

② 漁業

西淀川区では、大和田村の漁民が佃村の漁民の力を借りて、徳川家康のために神崎川の船渡しを行ったことにより、大規模な漁業特権を与えられるなど、江戸時代から漁業が盛んでした。明治末期には、大和田の漁民は80軒、大野と百島にそれぞれ40軒を数え、福では400軒のうち半数が漁民でした。戦後、工業化の進行により、漁業従事者は減り続けました。

昭和40年代の大阪港湾開発により大阪市が漁業権を買い上げ、大阪港湾水域での許可漁業のための漁業権は消滅しました。

現在、西淀川区では、自由漁業が行われているのみで、詳細な漁獲高は不明ですが、今なお、生業として漁業を営んでいる方々がおられます。

表 1.9 西淀川区の漁業状況

年	経営体数				従事者	使用漁船数				漁獲高				
	総数	個人経営 専業	個人経営 兼業	共同経営		総数	有動力	船外機 付船	無動力	総数 (kg)	魚類 (kg)	貝類 (kg)	その他 (kg)	金額 (千円)
昭和35年	57	26	31	—	95	62	38	—	24	187,445	90,014	96,680	751	11,158
昭和40年	69	27	42	—	120	78	48	—	30	215,962	124,448	85,257	6,257	—
平成14年	45	20	22	3	56	82	43	38	1	—	—	—	—	—
平成19年	20	19	—	1	35	26	10	16	0	—	—	—	—	—
平成23年	20	19	—	1	29	25	27	1	0	—	—	—	—	—

出典) 大阪市統計書(昭和35年版、昭和40年版、平成14年版、平成19年版、平成23年版)

備考：個人経営の漁家を含むため、図 1.21、図 1.22「事業所・従業員数」第一次産業より、「経営体数」「従業者」は値が大きくなる



神崎川の船だまり

③ 工業

西淀川区は三方を河川と海に囲まれ、工業用地として適していることから、区西側臨海部には鉄鋼、金属、機械など重工業を中心とする大規模工場が立地し、内陸部には中小企業の町工場が立地しています。

事業所数は、昭和50年から1,600事業所で推移し昭和63年にピークを迎え、平成21年には923とピーク時の6割弱にまで減少しました。従業員数は昭和35年から減少傾向にあり、平成21年には15,051人と昭和35年の40,306人の4割弱となっています。一方、出荷額は平成2年まで増加傾向にありましたが、以降減少傾向にあり、平成21年には5,472億円とピーク時の約6割に減少しました。なお、現在においても、西淀川区の製品出荷額は、大阪24区内において淀川区に続く2位であり、市内でも有数の工業地帯といえます。

西淀川区内の製造業の業種構成をみると、加工組立型業種が多く、生活関連型業種及び基礎素材型の比率が少なくなっています。また、この傾向は、近年大きくなっています。

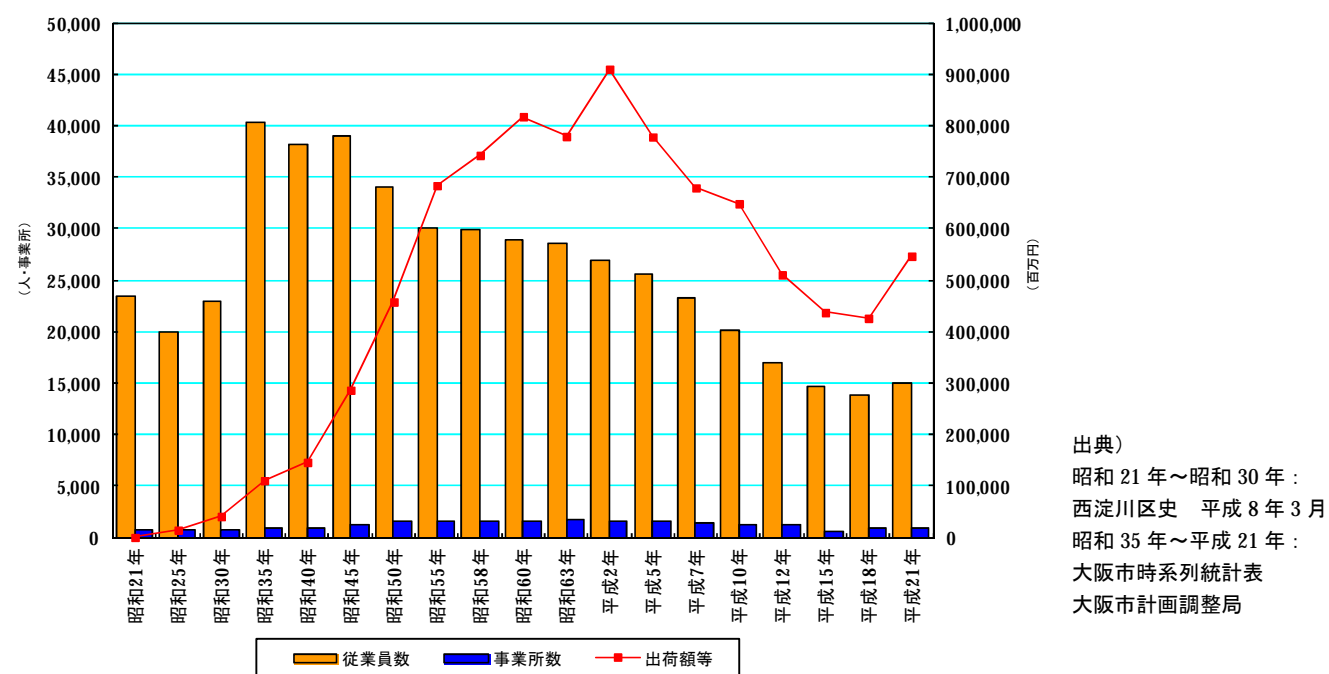


図 1.23 西淀川区の製造業（事業所数・従業員数・製造品出荷額）

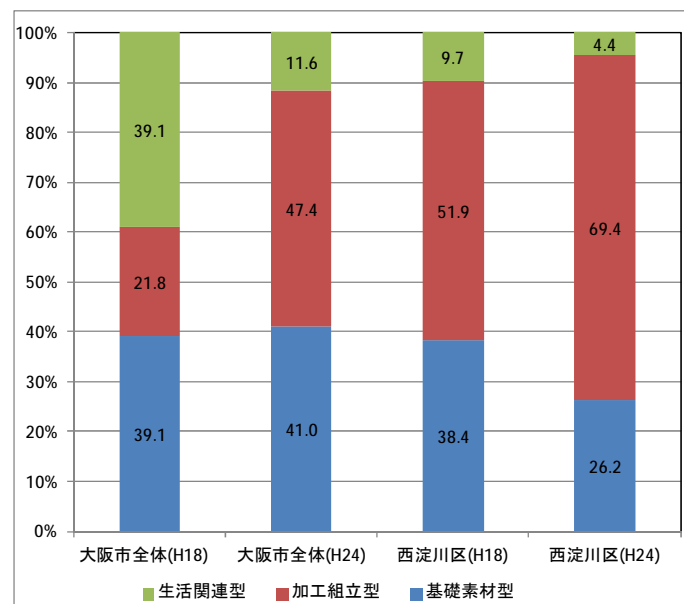


図 1.24 大阪市全体と西淀川区の業種構成の比較（平成18年、24年）

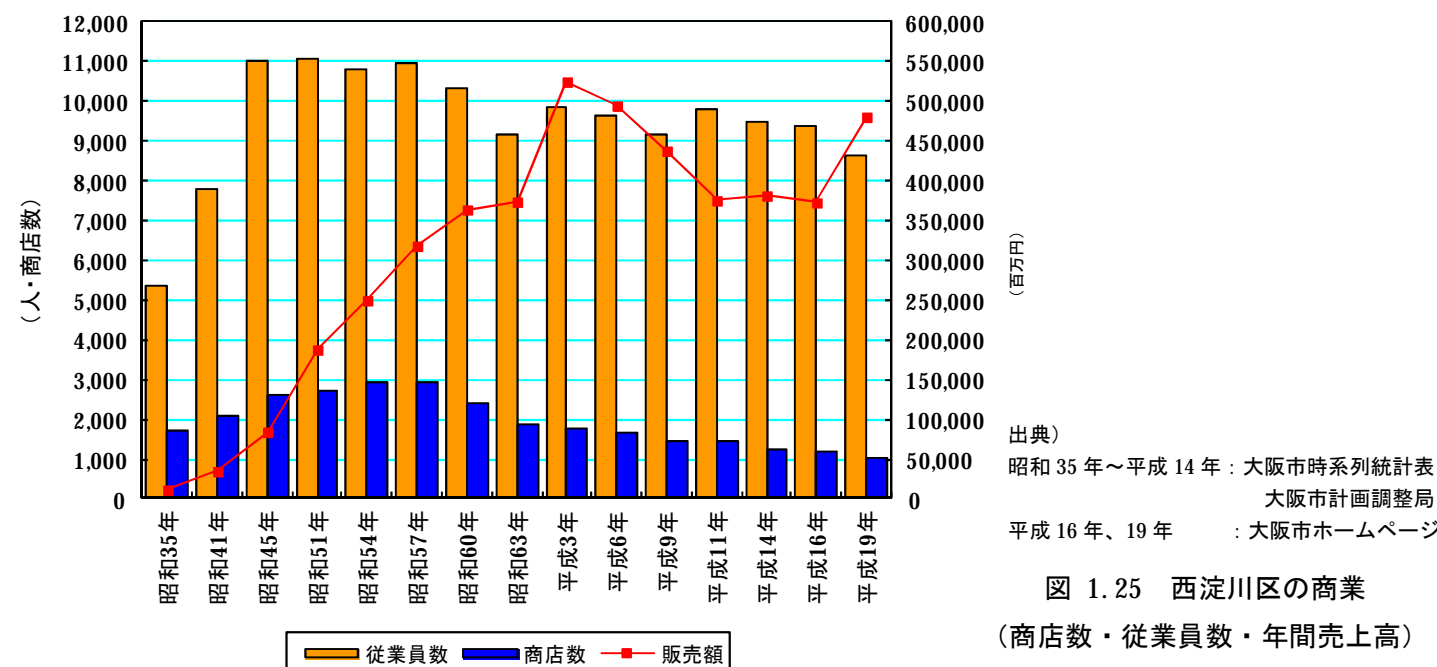
注）業種構成は事業所数の構成による
業種類型は下記のとおり
基礎素材型：木材、パルプ、化学、石油、プラスチック、ゴム、窯業、鉄鋼、非鉄金属
加工組立型：一般機械、電気機械、情報通信機械、電子部品、輸送用機械、精密機械
生活関連型：食品、飲料、繊維工業、衣服、家具、印刷、皮革、その他製造業

出典）工業統計調査（大阪市ホームページ）

④ 商業

工業地区として発展した西淀川区は、問屋業が少なく日常生活に直結する小売業が多いことが特徴でした。戦後は鉄道駅周辺が商業集積の中心でしたが、顧客のライフスタイルの変化に伴い、近年は幹線道路や工場跡地などに駐車場を多く備えた大型店の出店が増え、小規模な商店が減少する傾向にあります。

商店数は昭和57年に、従業員数は昭和51年にピークを迎え、その後、いずれも減少傾向にあります。店舗数が減少する中で、平成に入ってから販売額は昭和期より高額で推移しており、小売業が大型店化している状況が現われていると考えられます。



出典）昭和35年～平成14年：大阪市時系列統計表
大阪市計画調整局
平成16年、19年：大阪市ホームページ

図 1.25 西淀川区の商業（商店数・従業員数・年間売上高）

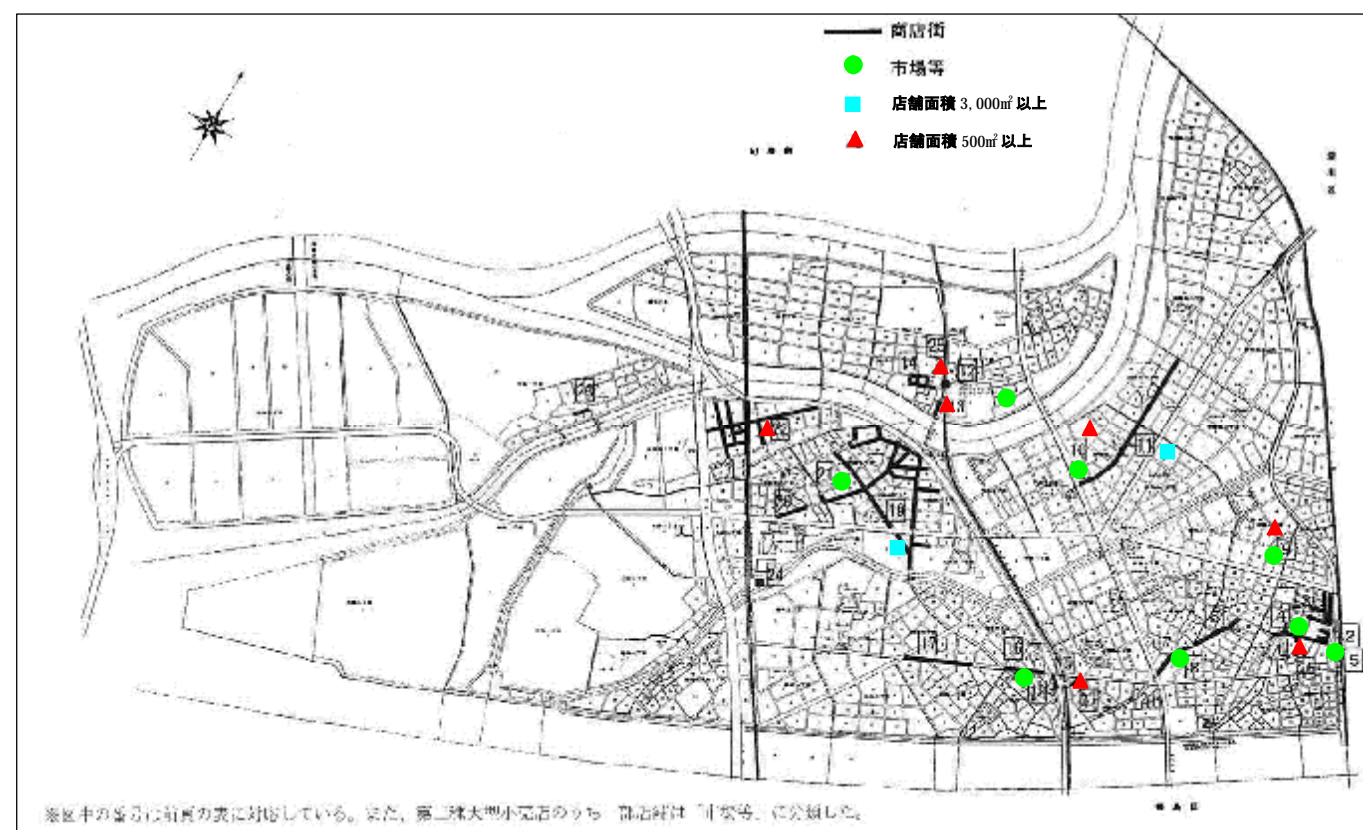


図 1.26 西淀川区の商業集積状況

出典）西淀川区まちづくりレポート（平成13年3月）西淀川区役所（一部改変）
全国大型小売店総覧 2009

3) 土地利用

西淀川区は、佃地区などの一部に中高層住宅地を含む住宅地がみられますが、大部分は、阪神工業地帯に属していることもあり、工業用地が多くなっています。

平成22年調査によると、西淀川区の工業施設は18.87%で、大阪市全体の6.82%に比べると、多くなっています。また、土地利用変化の状況によると、西淀川区は、大阪市全体と同様、工業施設が減少、公園緑地、遊戯・娯楽・サービス施設、業務用地が増加している傾向にあります。

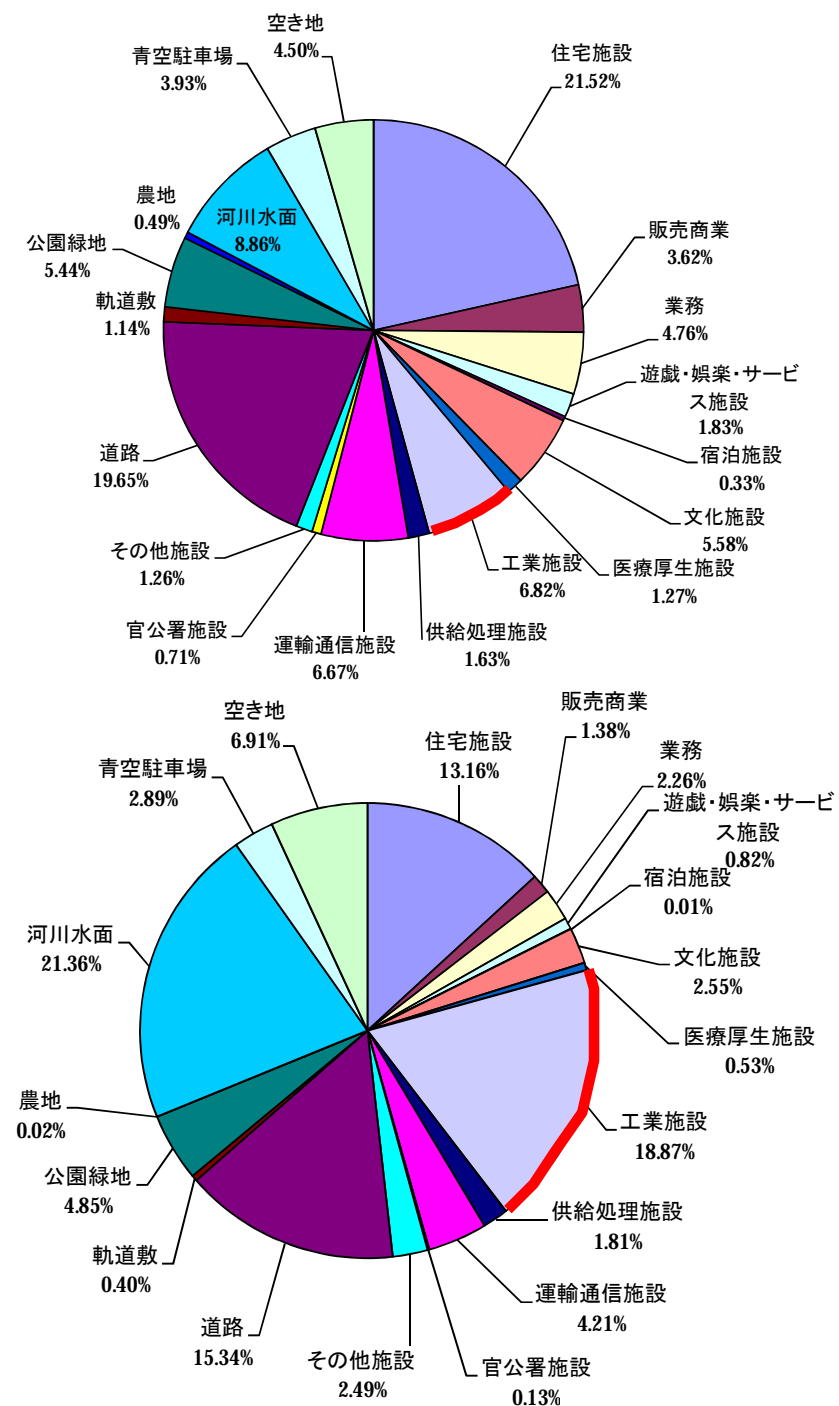


図 1.27 平成19年度大阪市全体と西淀川区の土地利用状況

出典：平成19年度土地利用現況調査 2007年 大阪市計画調整局

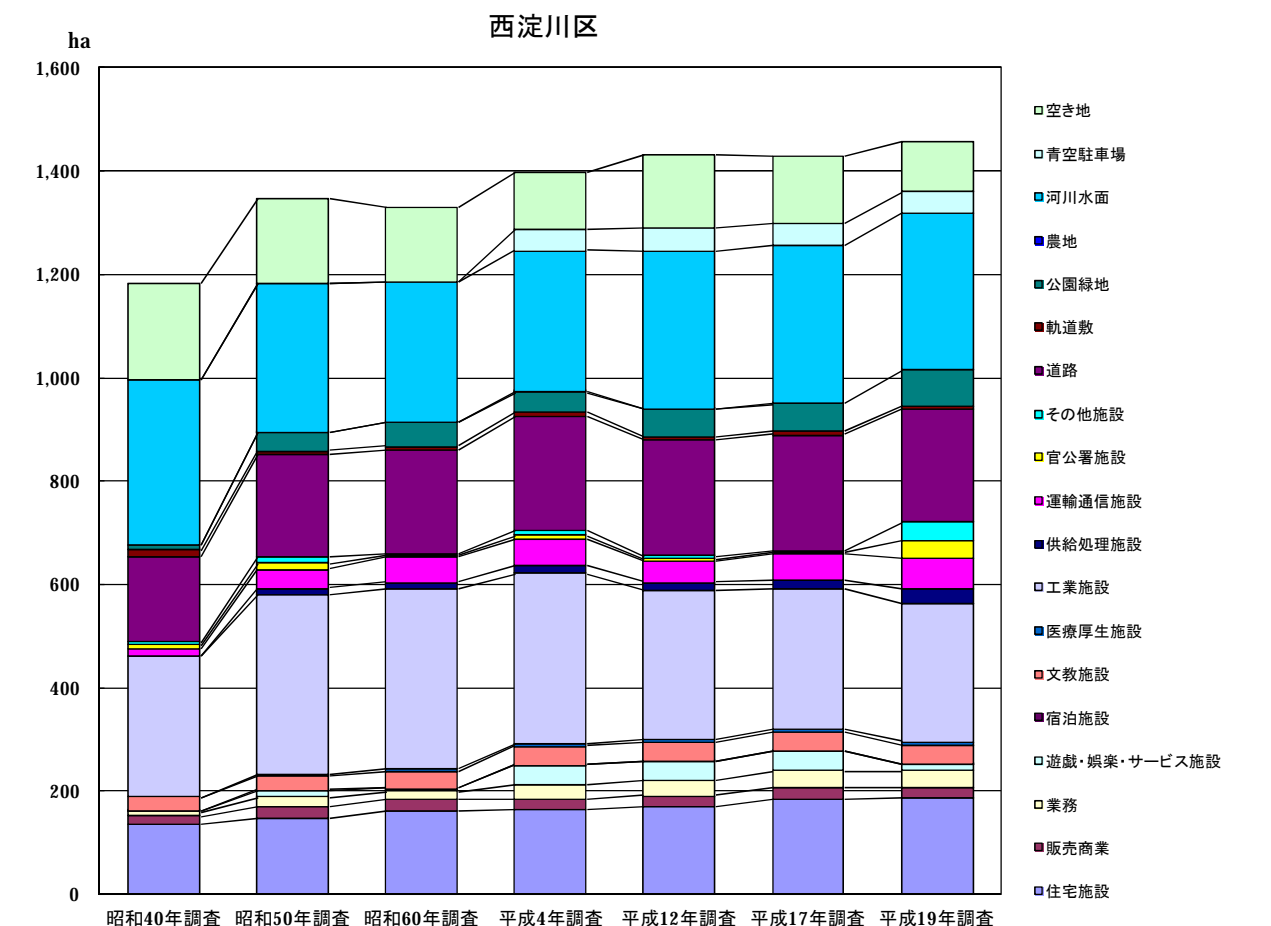
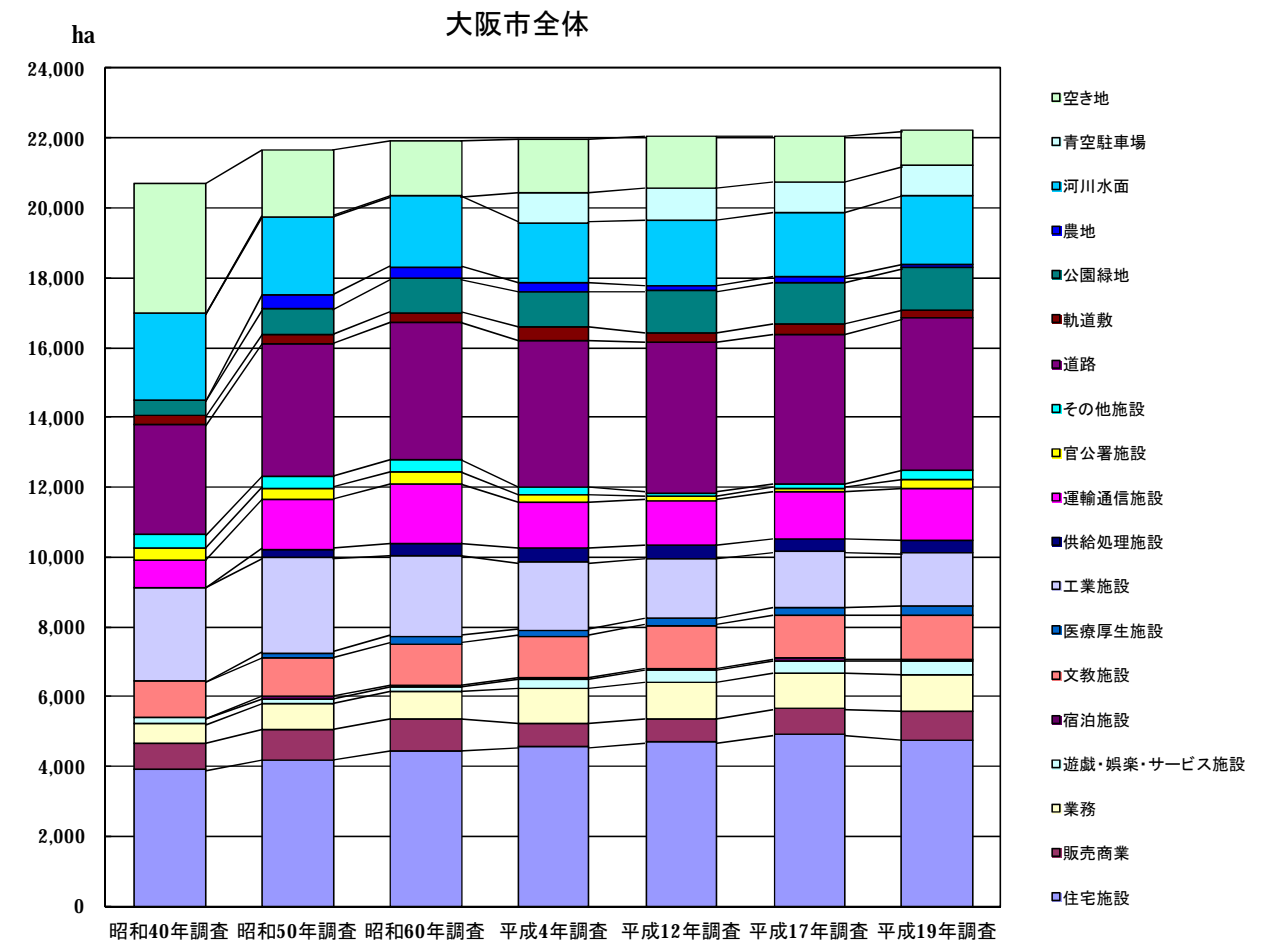
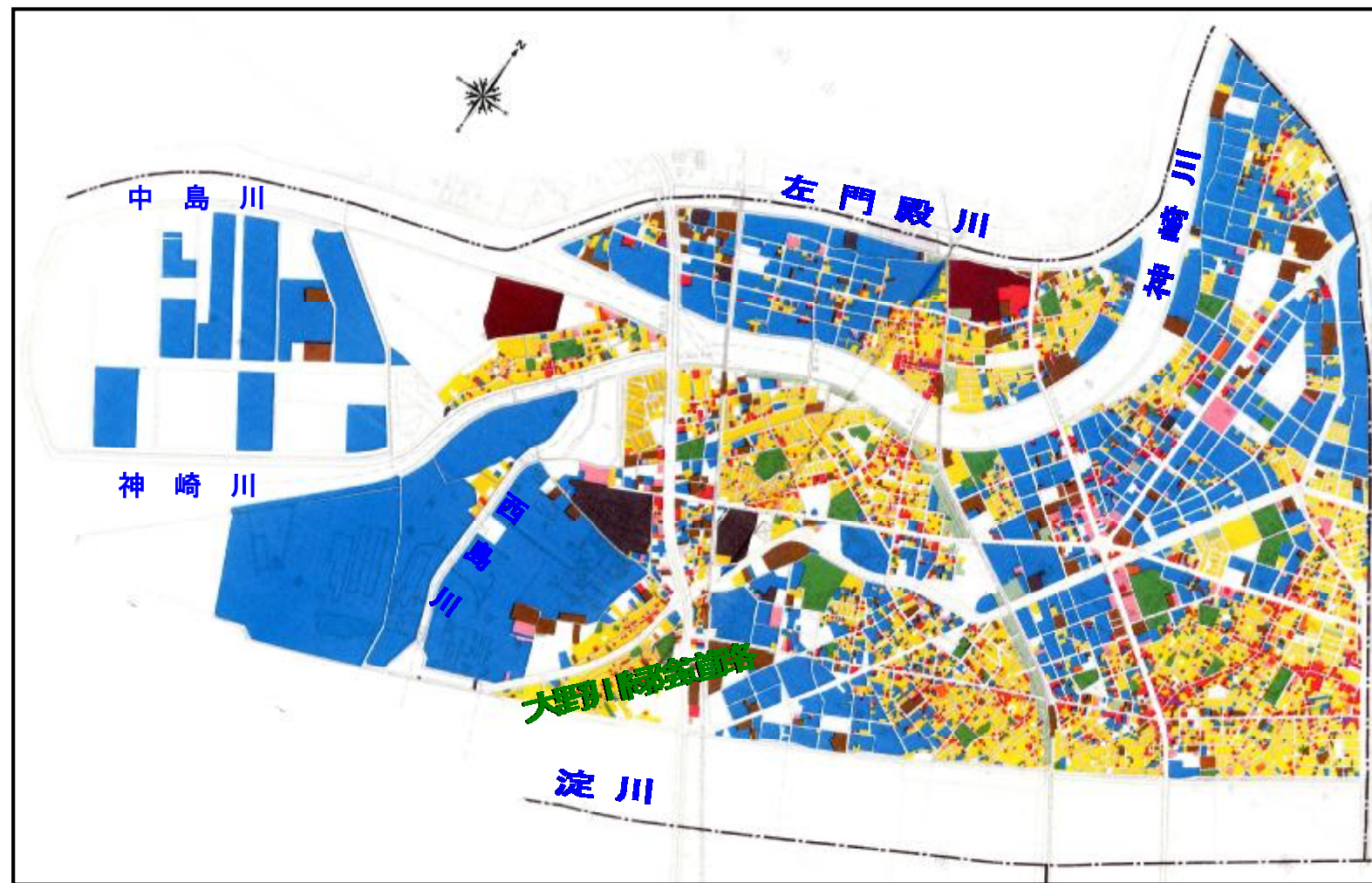


図 1.28 大阪市全体と西淀川区の土地利用変化

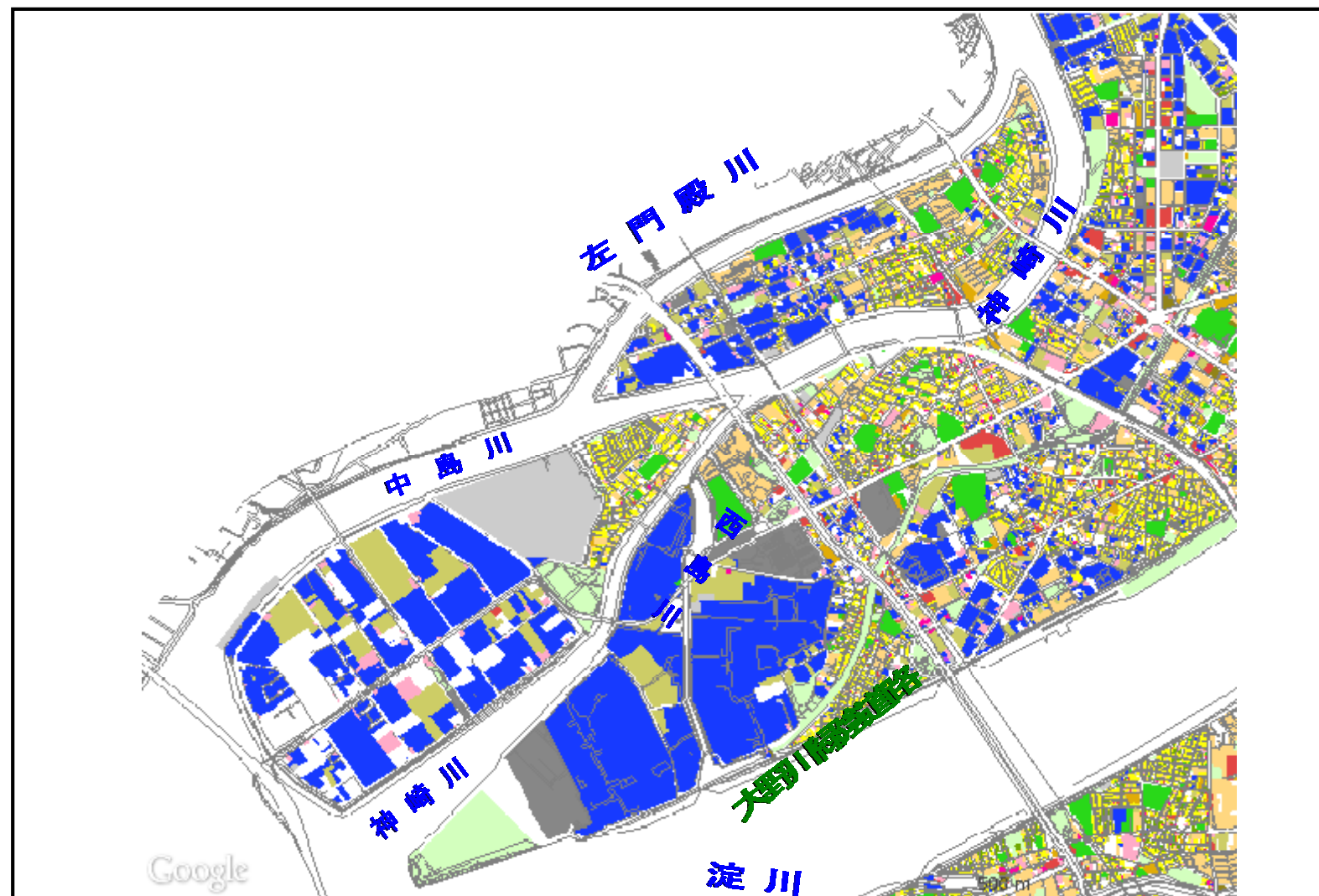
出典：土地利用現況調査 大阪市計画調整局



凡 例	
	官公署施設
	運輸施設
	供給・処理施設
	文教施設
	医療厚生施設
	興行施設
	遊興宿泊施設
	販売商業施設
	業務施設
	工業施設
	住居施設
	農林漁業施設
	その他の施設

敷地単位に着色。但し、同一敷地内の用途が2以上の場合は主たる用途とする。

図 1.29 西淀川区の土地利用現況（昭和50年）
 出典：大阪市建物用途別現況図（行政区別・昭和50年）
 1978年3月 大阪市総合計画局



凡 例 LEGEND	
	一戸建住宅 Detached Houses
	長屋建住宅 Tenement Houses
	共同住宅 Apartment Houses
	販売商業施設 Retail-Wholesale-Commercial Facilities
	業務施設 Offices-Business Facilities
	文教施設 School-Libraries-Shrines-Temples Educational Facilities
	医療・厚生施設 Hospitals and Welfare Facilities
	遊興・娯楽・サービス施設 Entertainment/Amusement and Service Facilities
	宿泊施設 Hotels-Lodgings
	工業施設 Factories-Industrial Facilities
	供給・処理施設 Supply-Treatment Facilities
	運輸・通信施設 Transportation-Communication Facilities
	官公署施設 Government-Public Offices
	その他施設 Other Facilities
	公園・緑地・墓地等 Parks-Gardens-Cemeteries
	建物のない土地 Vacant Lots

敷地単位に着色。但し、同一敷地内の用途が2以上の場合は主たる用途とする。

図 1.30 西淀川区の土地利用現況（平成19年）
 出典：平成19年度土地利用現況調査
 2007年 大阪市計画調整局

4) 流域の歴史・文化

西淀川区の文化財¹¹⁾としては、「大阪市顕彰碑¹²⁾」の“野里の渡し”、“佃漁民ゆかりの地”をはじめ、“大浦の渡し跡”、“中島大水道跡碑”といった川にまつわる多くの史跡があります。また、川や海との関わりを思い起こさせる伝承、地名も多く、地域住民に誇りと愛着を感じさせる要素となっています。

① 歴史・文化財

表 1.10 西淀川区の文化財・史跡

文化財種別		
No.	文化財名称	出典
大阪市顕彰碑		
1	野里の渡し（櫛の橋）	A
2	佃漁民ゆかりの地	A
3	判官松伝承地	A
埋蔵文化財包蔵地		
4	大和田城跡伝承地	A
その他文化財・史跡・碑		
5	一休和尚の足跡	B
6	一寸八分の阿弥陀仏	B
7	「池永家」住宅	B
8	海の守護神	B
9	大浦の渡し跡	B
10	野里の一夜官女（大阪府選択）	A
11	人身御供の乙女塚	B
12	紀貫之の歌碑	B
13	初代心斎橋・新千船橋跡	B
14	旧町名継承碑「北西島町」	B
15	旧町名継承碑「布屋町」	B
16	城島のくさ神	B
17	天神社趾碑	B
18	中島大水道跡碑	B
19	西成大橋親柱の碑	B
20	万葉の歌碑（姫島神社内）	B
21	万葉の歌碑（大和田住吉神社内）	B
22	判官松の跡碑	B

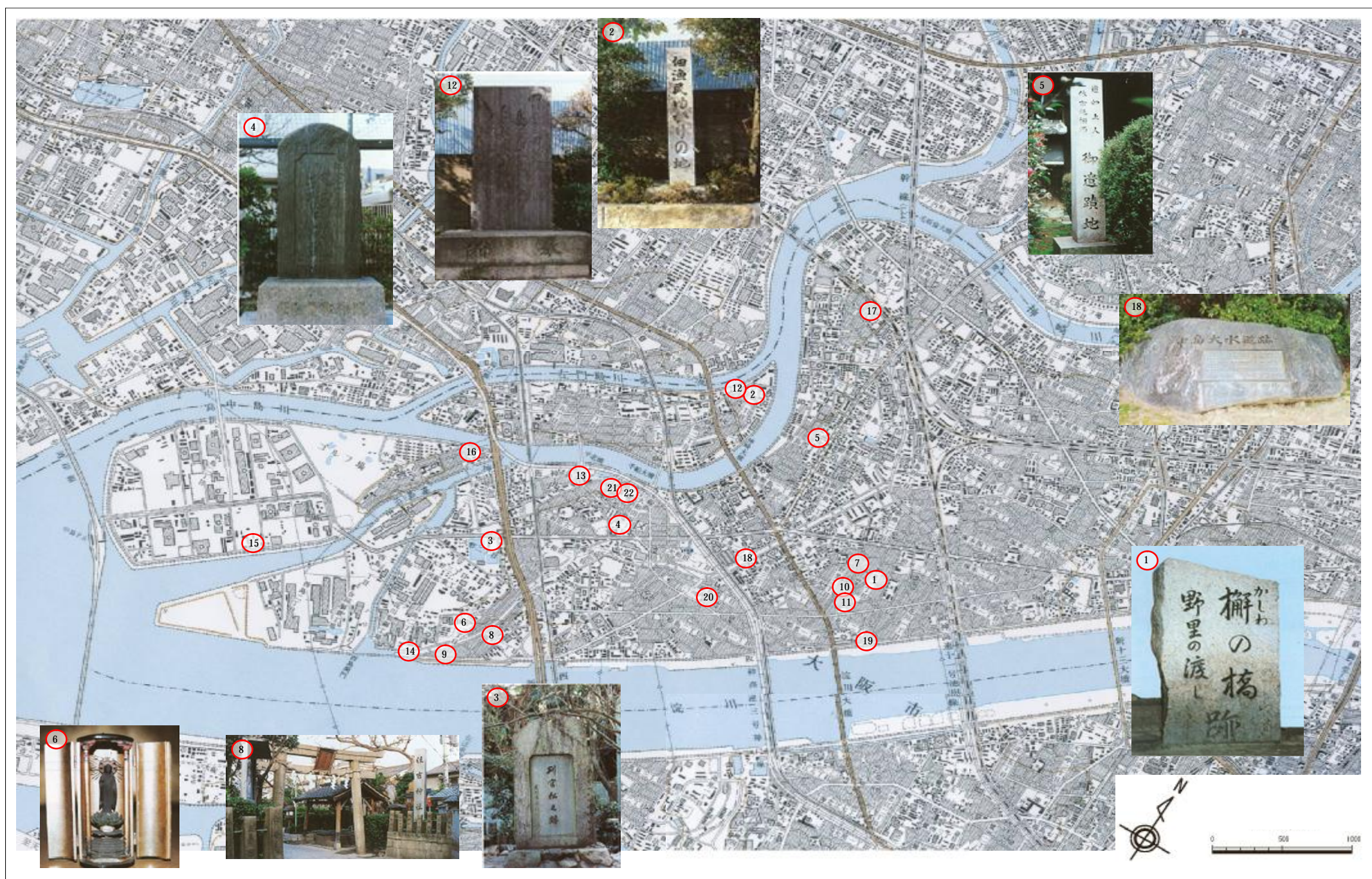


図 1.31 西淀川区 文化財・史跡等位置図

出典：A「大阪の文化財 大阪市」
 B「わがまち西淀川 2005年版 西淀川区役所」

¹¹⁾ 参考とした資料：大阪市、西淀川区のホームページ他。

¹²⁾ 大阪市顕彰碑：顕彰碑とは、功績や善行などを称えるために立てられる石碑などのことである。大阪市では、大阪ゆかりの史跡や文化財の所在地に、史跡顕彰碑や顕彰パネルを設置し、市民の大阪の歴史に関する理解を深めていく取り組みを行っている。

② 伝承

西淀川区には、臨海部に位置していたこともあり、舟運や漁業にまつわる伝承が多くあります。

柏里と柏の葉

神功皇后が朝鮮半島に向かわれるにあたり、この地を通過したとき、里人がつきたての餅を柏の葉にのせて献上したといわれます。これが柏里の名の起りだと伝えられますが、一説には5世紀前半仁徳天皇の30年9月、皇后が熊野詣の帰途、かの地から持ち帰った柏の葉をここで捨てたことに因んだともいいます。

佃千軒の漁民

佃は往時田蓑島と呼ばれていました。足利義詮の1364年(貞治3年)住吉詣記に「田蓑島の南に当り、野田の玉川という所あり」と記されています。また宗祇法師の名所方角抄には「田蓑島は天王寺の西」成亥の方よりの海濱なり」とあって、佃は佃千軒と呼ばれるほど、たくさんの漁民が集っていました。付近ではエブナ、シラウオ、イカナゴがよくとれ、特にエブナはその味が優れていて有名であったといわれます。

大和田の鯉つかみ

佃、大和田、百島、福にかけての鯉漁は古くから「大和田の鯉つかみ」と呼ばれて有名でした。摂津名所図会にも、「何となく鯉は浮きけり春の水」

御幣島と神功皇后

むかし神功皇后が住吉神社に奉獻された島の中に幣帛島と呼ばれた島があります。これは三韓から朝貢を運んできた船が、このあたりで難船の危機にあったことから、この島に姫神を祀ったと住吉神社記にあります。また一説には、神功皇后が朝鮮半島に向かわれるの帰途、ここで御幣を調整し、国の安泰を祈ったとも伝えられています。これが御幣島の語源です。

野里の島村蟹

野里の開発は南北朝時代と伝えられています。嘉吉2年(1442年)にこの地の一部が崇禪寺に寄進されましたが、その書状には「摂州中嶋野里庄」とあります。この地には「島村蟹」の伝説があります。

1531年(享禄4年)島村左馬助がこの地において戦いに破れ、多くの家臣もまた討たれました。その時左馬助は敵2人を両脇にかかえて野里川にとびこんで死んだといわれます。その怨念が残って、以来この川には武者の怒ったような顔の甲羅をした蟹が見られるようになり、人々はこれを島村蟹と呼んだと摂陽群談に記されています。



という句があって、鯉つかみののどかな風景がしのべれます。



当区は、神功皇后との関わりが深かったことが伝えられていることから、神功皇后が朝鮮半島へ向かわれる折の様相を創造し、明治時代に作られた豪華な東町地車の刺繍飾幕(前幕)一写真一が現在、姫嶋神社に所蔵されています。

出典：My Town 西淀川 西淀川区役所

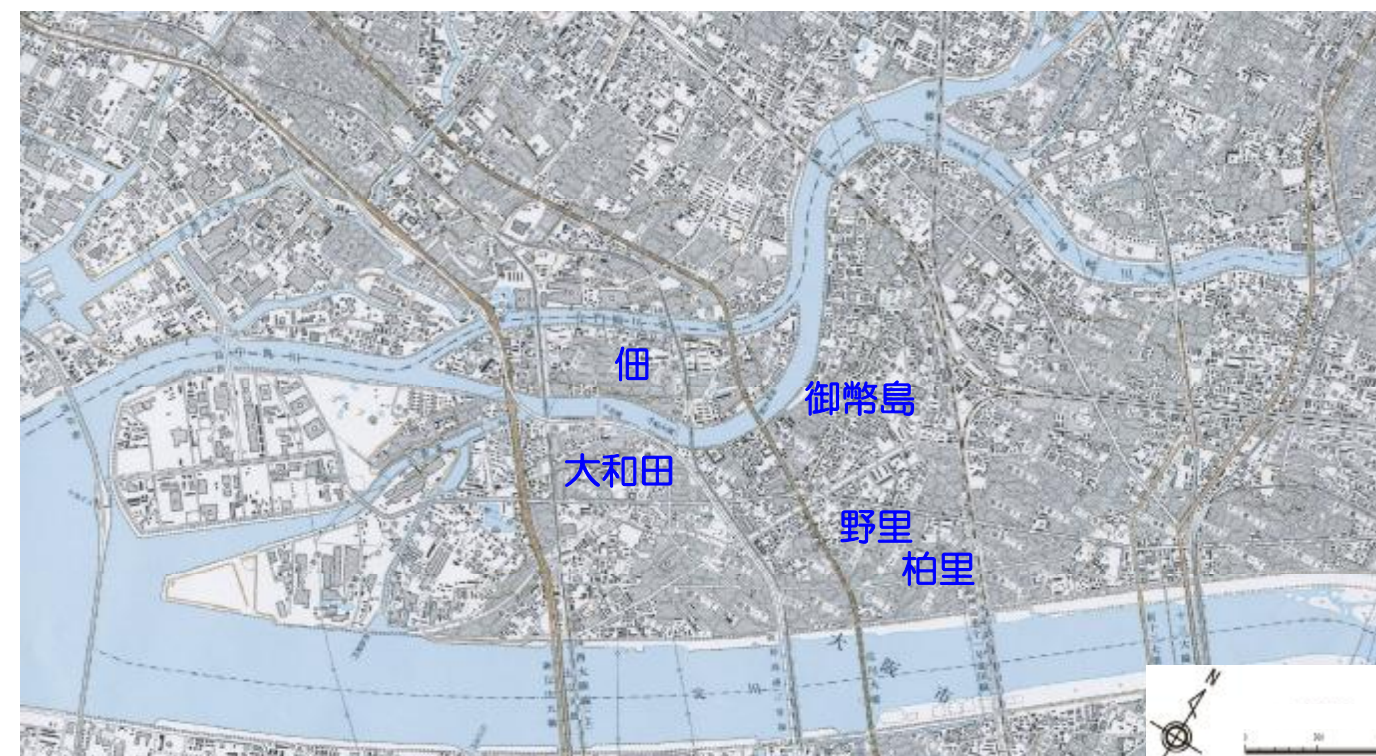


図 1.32 西淀川区 伝承地名位置図

出典：My Town 西淀川 西淀川区役所

③ 水辺の暮らしの名残

西淀川区の原風景は水郷地帯であり、川と海に囲まれた中で人々の暮らしが営まれてきました。かつては大小8つの河川が区内を流れていましたが、中津川、大和田川、大野川は埋め立てられ、現存するのは神崎川、中島川、左門殿川、西島川、淀川となっています。

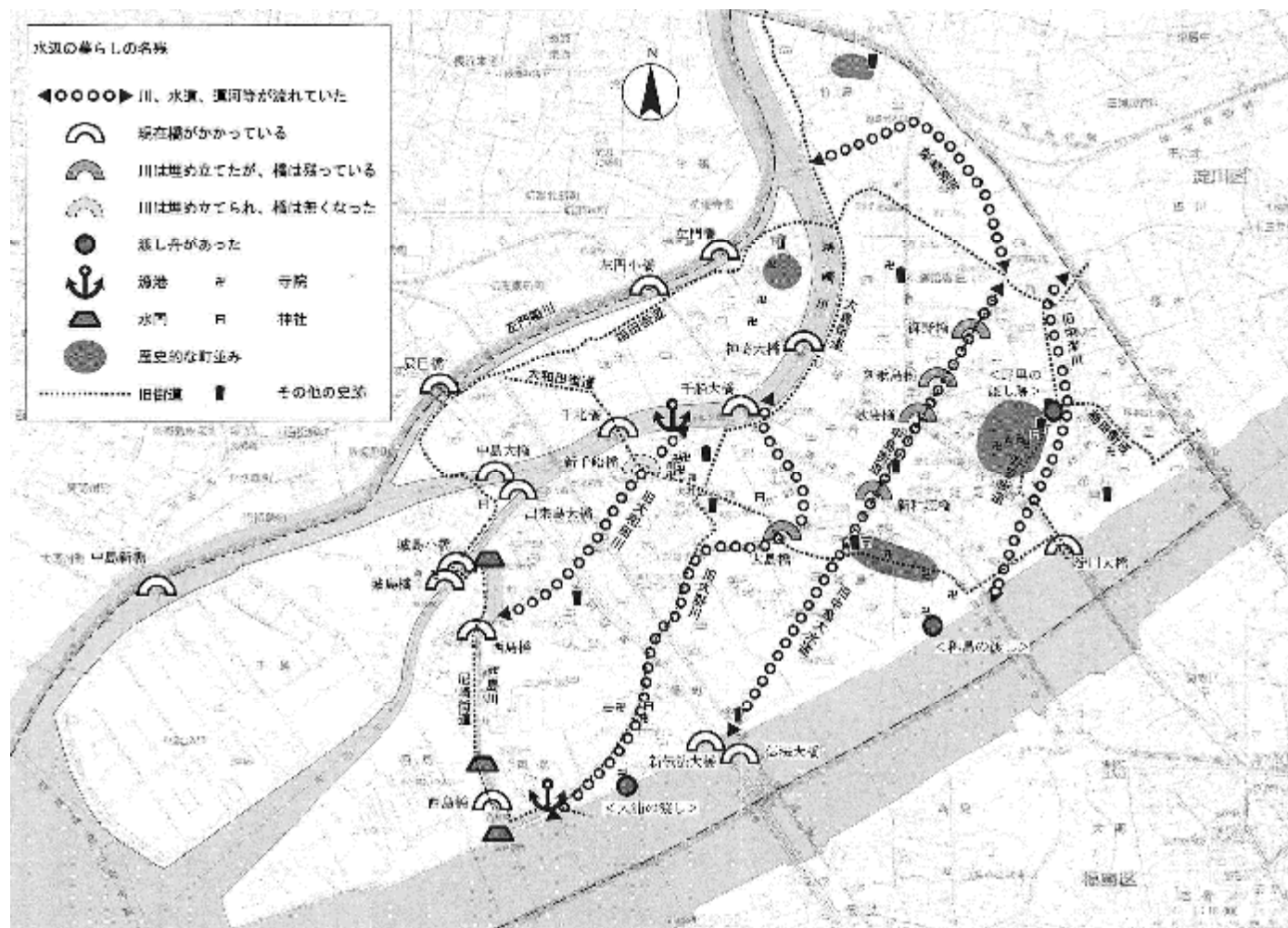


図 1.33 西淀川区における水辺の暮らしの名残

出典：西淀川区まちづくりレポート（平成13年3月） 西淀川区役所

5) 行事・イベント

西淀川区は、川と海に囲まれた土地柄、河川に関するイベントが多くあります。野里住吉神社の「一夜官女祭」は、河川が氾濫した際の人身御供の名残として有名です。

表 1.11 西淀川区における行事・イベント

開催月	行事名	時期	開催場所
1月	淀川十日戎	1月9日～11日	野里住吉神社
2月	にしよどふれあいフェスティバル	2月第3木曜日、金曜日	老人福祉センター
2月	一夜官女祭	2月19日、20日	野里住吉神社
3月	防災のつどい	3月第2木曜日	西淀川区民ホール
6月	大野川緑陰道路クリーン大作戦		大野川緑陰道路
7月	防潮鉄扉の閉開訓練		防潮鉄扉
8月	なにわ淀川花火大会	8月第1土曜日	淀川河川敷
9月	大野川緑陰道路クリーン大作戦		大野川緑陰道路
11月	西淀川区まちづくり体感フェスタ		
12月	大野川緑陰道路クリーン大作戦		大野川緑陰道路
毎月	矢倉海岸定例探鳥会	毎月第1土曜日	大野川緑陰道路、矢倉海岸、他

出典：区民発！にしよどがわガイドブック（平成20年3月） 西淀川区役所

6) 公共・レクリエーション施設

当該ブロックにおける公共施設は、官公庁が8箇所（出張所、交番を含めると19箇所）、学習・福祉・集会施設が西淀川区民ホールなど9箇所、郵便局（H19年10月より民間移行）は特定郵便局を含めて13箇所、校園・保育園は高等学校が3箇所、中学校が4箇所、小学校が14箇所、特別支援学校が各1箇所、幼稚園が6箇所、保育園が16箇所、その他が3箇所あります。

公共のレクリエーション施設として、区民がよく利用する施設としては「大野川緑陰道路」、「西淀川図書館」があります。魅力のある地域の施設として区民に親しまれているものに「矢倉緑地」、「大野川緑陰道路」、「西淀川区民会館」、「佃ふれあい公園」、「淀川河川敷・堤防」があります。このうち、「矢倉緑地」では散歩や釣りに利用されており、この来園者の2割が頻繁に訪れ、その9割が西淀川区の住民であることがアンケート結果よりわかっています。また、「大野川緑陰道路」は緑豊かな空間として西淀川区のシンボルとなっており、多くの住民が憩いのある散歩道として日常的に利用されています。河川沿いには、「なにわ自転車道」が神崎川左岸を西島川が分流するまでの区間に、「西島川自転車歩行者道路」が西島川左岸を河口付近まで整備されており、市民に利用されています。

① 公共施設

表 1.12 西淀川区の公共施設

官公庁	
名称	
西淀川区役所	
西淀川区保健福祉センター	
西淀川消防署	
佃出張所	
大和田出張所	
竹島出張所	
環境局西北環境事業センター	
水道局歌島サービスステーション	
建設局大野下水処理場	
西淀川税務署	
西淀川警察署	
佃交番	
竹島交番	
歌島交番	
野里交番	
姫島駅前交番	
大和田交番	
福大野交番	
中島交番	
学習・福祉・集会施設	
名称	
西淀川区民ホール	
西淀川区民会館(エルモ西淀川)	
西淀川屋内プール	
西淀川屋内プールトレーニング室	
西淀川スポーツセンター	
西淀川図書館	
西淀川区在宅サービスセンター(ふくふく)	
西淀川区老人福祉センター	
西淀川区子ども・子育てプラザ	
郵便局	
名称	
西淀川郵便局	
西淀川郵便局メラード大和田店出張所	
<特定郵便局>	
大阪姫島郵便局	
西淀川歌島郵便局	
西淀川歌島橋郵便局	
西淀川大和田郵便局	
西淀川柏里郵便局	
西淀川千船郵便局	
西淀川佃郵便局	
西淀川出来島郵便局	
西淀川中島郵便局	
西淀川福郵便局	
西淀川御幣島郵便局	

校園・保育所	
名称	
<高等学校>	
大阪市立淀商業高等学校	
大阪府立西淀川高等学校	
好文学園女子高等学校	
<中学校>	
淀中学校	
西淀中学校	
歌島中学校	
佃中学校	
<小学校>	
大阪市立柏里小学校	
大阪市立野里小学校	
大阪市立姫里小学校	
大阪市立姫島小学校	
大阪市立福小学校	
大阪市立大和田小学校	
大阪市立川北小学校	
大阪市立佃小学校	
大阪市立香簀小学校	
大阪市立歌島小学校	
大阪市立出来島小学校	
大阪市立佃西小学校	
大阪市立佃南小学校	
大阪市立御幣島小学校	
<特別支援学校>	
大阪市立西淀川特別支援学校	
<その他>	
修成建設専門学校	
学校法人大阪朝鮮学園	
大阪福島朝鮮初級学校	
<幼稚園>	
大阪市立姫島幼稚園	
大阪市立野里幼稚園	
大阪市立大和田幼稚園	
御幣島幼稚園	
田養学園・佃幼稚園	
光の園幼稚園	
<保育所>	
大阪市立柏里保育所	
大阪市立福保育所	
大阪市立姫島保育所	
大阪市立出来島保育所	
大阪市立大和田保育所	
大阪市立香簀保育所	
大阪市立佃保育所	
大阪市立姫里保育所	
大阪市立野里保育所	
聖花保育園	
青空保育園	
よどっこ保育園	
みどり保育園	
ソフィアみてじま保育園	
姫島南保育園	
みさき佃保育園	

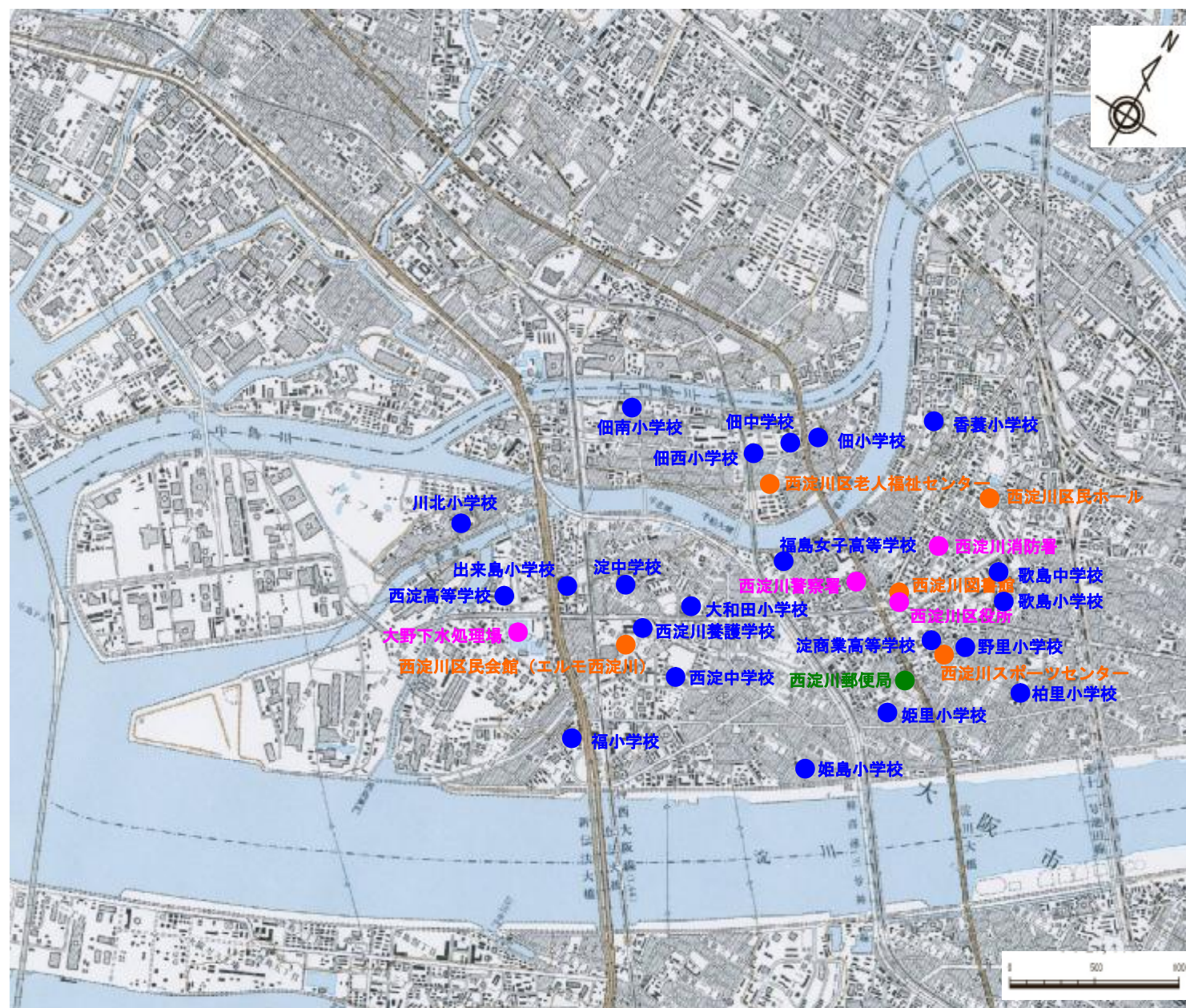


図 1.34 西淀川区 主な公共施設位置図

② レクリエーション施設

①なにわ自転車道、②大野川緑陰道路、③西島川自転車歩行者道、④矢倉緑地、⑤佃ふれあい公園、⑥大野せせらぎの里

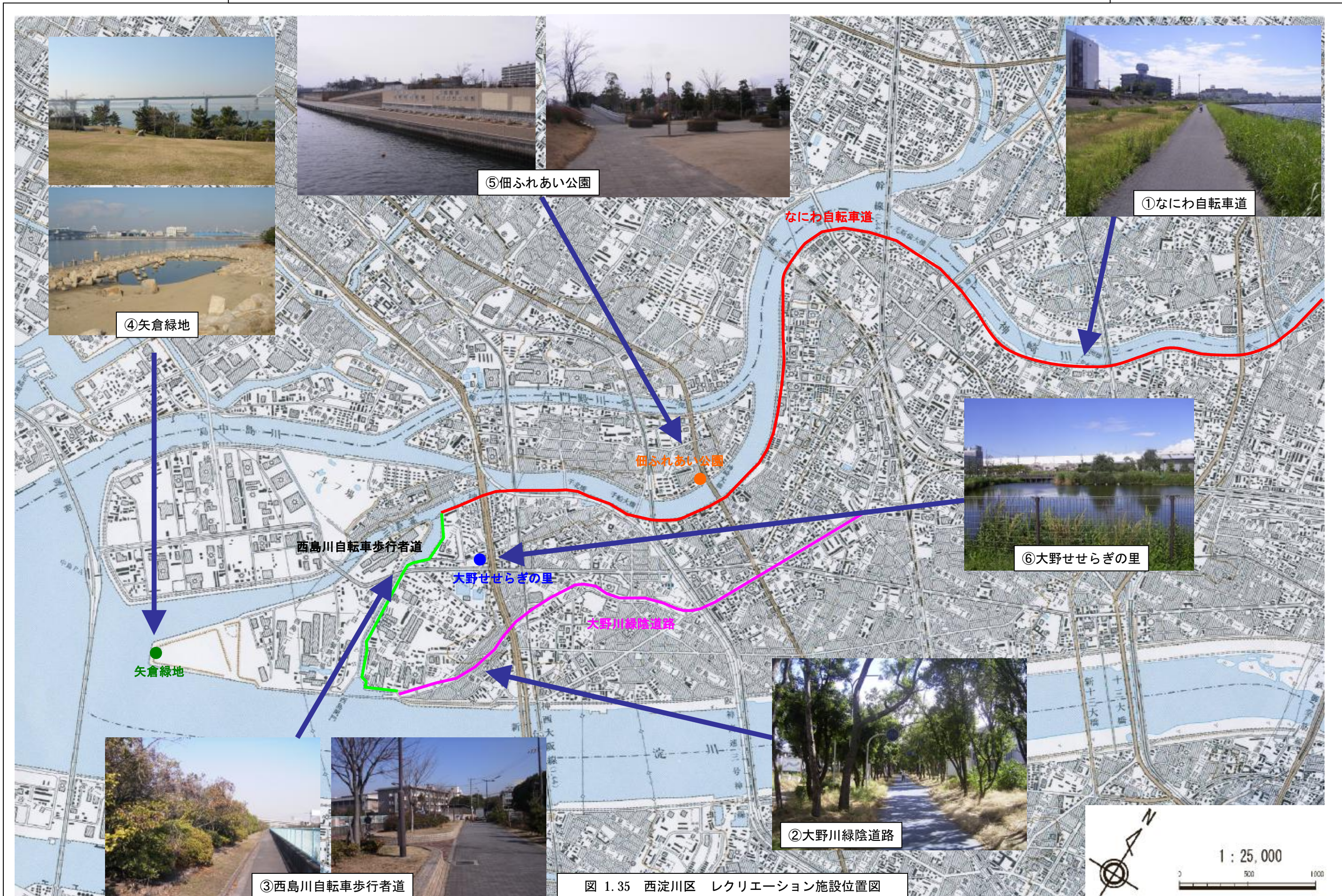


図 1.35 西淀川区 レクリエーション施設位置図

7) 交通

① 道路

西淀川区は古くから、大阪と中国地方を結ぶ「中国街道」が通る交通の要所で、中津川を渡る「野里の渡し」や、^{でんぽうちょう}伝法町から^{たつみぼし}辰巳橋までの「大浦の渡し」などの水運も発達し、人の往来が盛んな地域でした。

現在、西淀川区には、阪神高速道路神戸線・湾岸線・池田線の高速道路3線が通っています。また、主要道路として、国道2号、国道43号の南北軸、淀川通、みてじま筋、姫島通等の東西軸があります。

昭和34年から平成17年までの西淀川区域における交通量をみると、昭和36年～昭和50年代後半までは、「モータリゼーション」の発展と共に交通量が増えており、その後、平成初頭にかけて交通量が減少したものの、近年の経済情勢等により、再び増加しています。

高速道路を除く区内を通る主要な道路の交通量について、平成17年度の道路交通センサスをみると、国道43号の平日12時間交通量は6万台近くなっています。混雑度を見ると、みてじま筋で2.10と高い数字を示しています。

大型車混入率を見ると、高速道路や広域幹線と連絡している淀川通とみてじま筋では30%以上となっています。市営バスのバスルートであることを考慮しても、かなりの量の大型車両が通行していると推測されます。また、国道43号の調査地点はバスルートではありませんが、32.2%と高い数字を示しています。

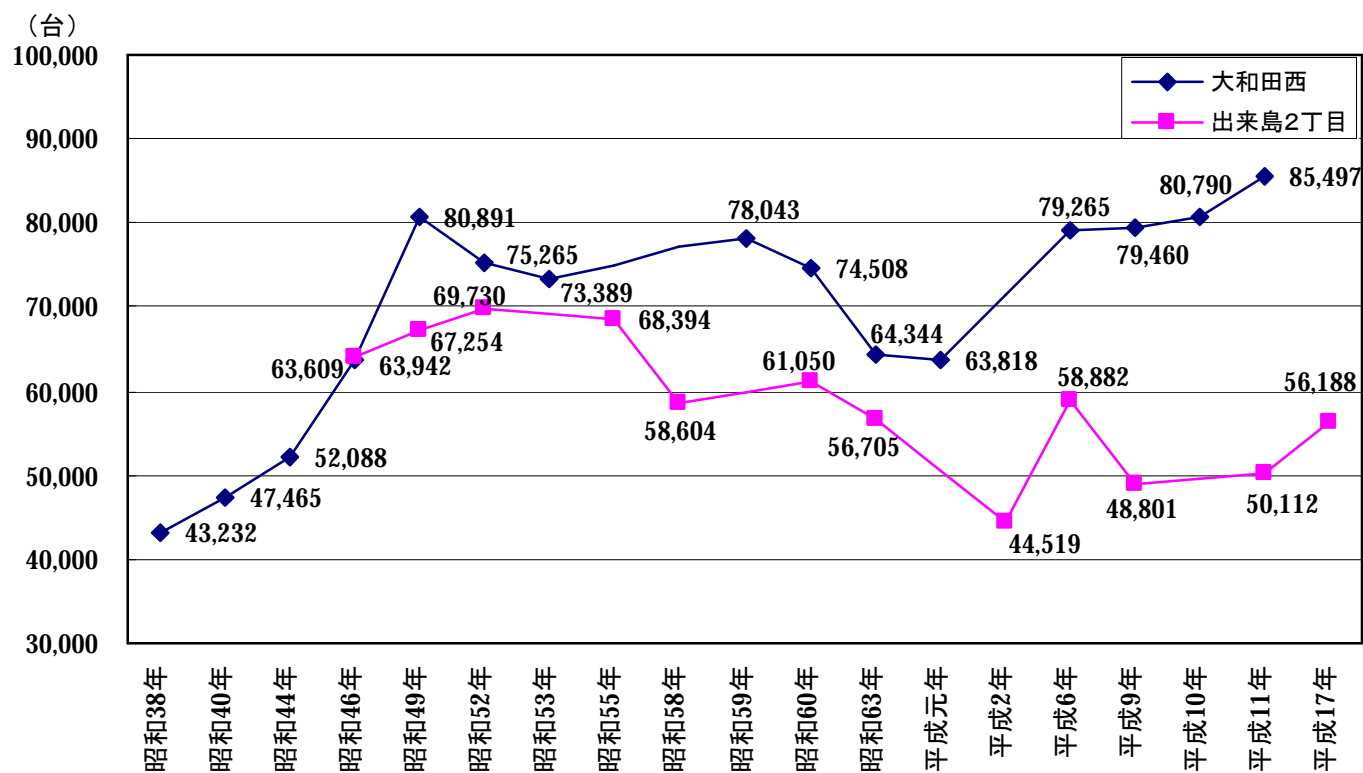


図 1.36 西淀川区 自動車交通量の経年変化

出典：大和田西：大阪府警本部「交通量統計表」

出来島2丁目：国土交通省「道路交通センサス」

表 1.13 主要道路の自動車交通量等

路線名	観測地点	平日12時間 自動車類交通量	混雑度 ※1	大型車混入率 ※2	交通量の伸び (H17/H11)
国道2号	野里2丁目	26,177	1.59	11.8	0.99
国道43号	出来島2丁目	56,188	1.50	32.2	1.12
淀川通 (主要地方道大阪池田線)	大和田6丁目	18,305	0.84	33.4	0.97
淀川通 (一般市道淀川北岸線)	歌島2丁目	16,772	0.95	21.1	0.87
みてじま筋 (主要地方道大阪池田線)	御幣島1丁目	15,086	2.10	30.5	1.11
姫島通 (主要地方道福町浜町線)	姫島6丁目	4,775	0.78	20.6	0.91
姫島通 (主要地方道福町浜町線)	柏里1丁目	7,657	1.03	12.3	0.91

出典：道路交通センサス(全国道路・街路交通情勢調査)：一般交通量調査《大阪市域版》平成17年度
大阪市建設局土木部工務課

※1 混雑度：調査単位区間の交通量に対する交通容量の比

※2 大型車混入率：自動車類交通量に対する大型車交通量の割合(%)

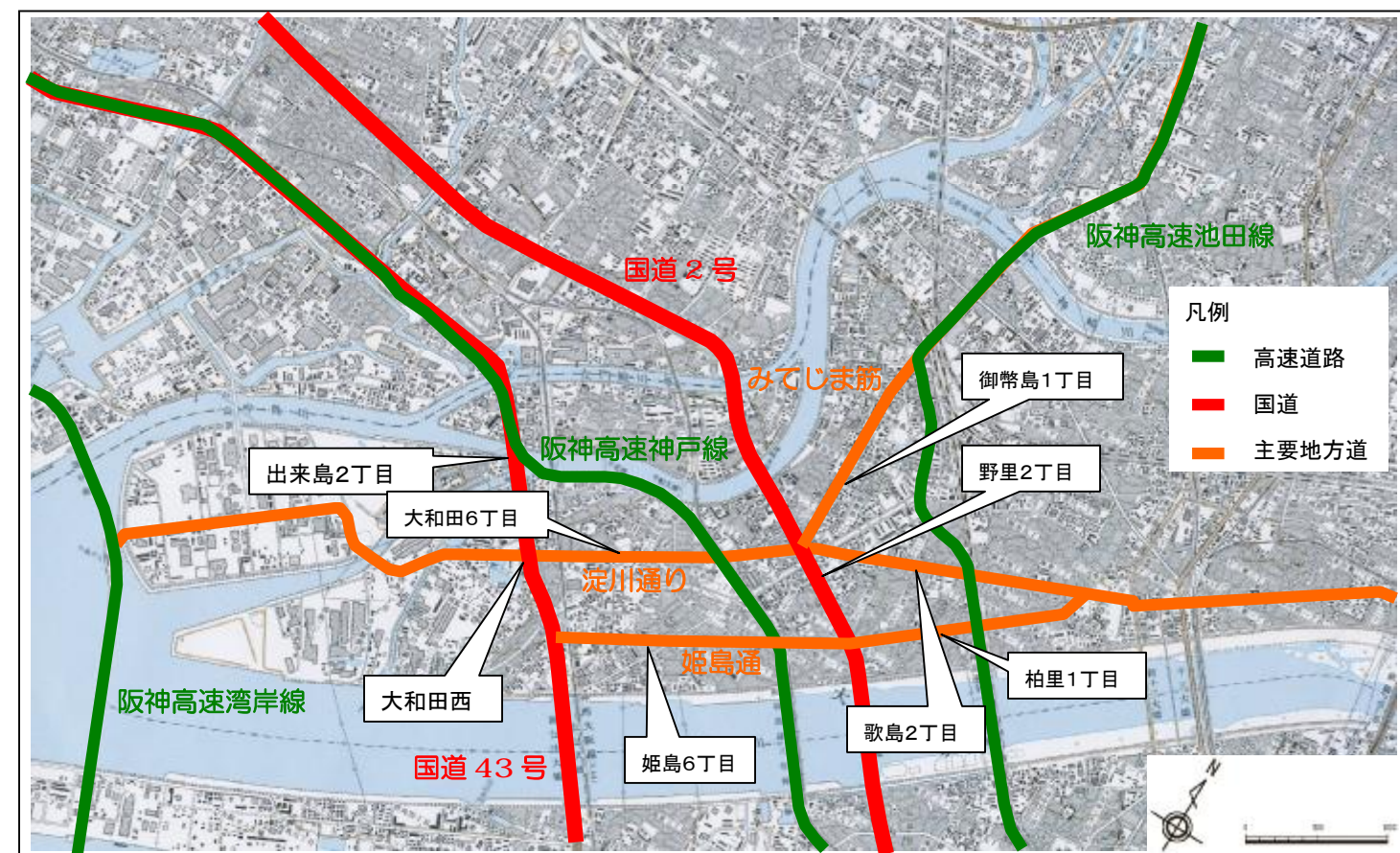


図 1.37 西淀川区 主要道路網図

② 鉄道

西淀川区には、JR東海道本線、東西線、阪神電鉄本線、阪神なんば線が通り、JR東海道本線塚本駅、JR東西線加島駅、御幣島駅、阪神電鉄本線千船駅、姫島駅、阪神電鉄なんば線出来島駅、福駅があります。

鉄道利用者数（乗車人数）は、昭和44年には69,400人でピークを迎えましたが、モータリゼーションの発達などにより減少、昭和50年5月に阪神電車国道線が廃線し、昭和59年には51,865人にまで減少しました。その後、平成9年のJR東西線の開通、加島駅、御幣島駅近隣の工場跡地へのマンション建設等による沿線人口の増加により徐々に増加し、平成11年以降は、60,000人程度で推移しています。

平成23年度の各駅の1日当たり乗降客数をみると、JR塚本駅が最も多く、以下JR御幣島駅、阪神千船駅、JR加島駅、阪神姫島駅、阪神福駅、阪神出来島駅の順になっています。

「阪神なんば線」（西九条～近鉄難波）が平成21年春に開通し、阪神出来島駅、福駅を合わせた1日あたりの利用客数は開通前の約15,300人から開通後の約17,300人と、約2,000人増加しました。

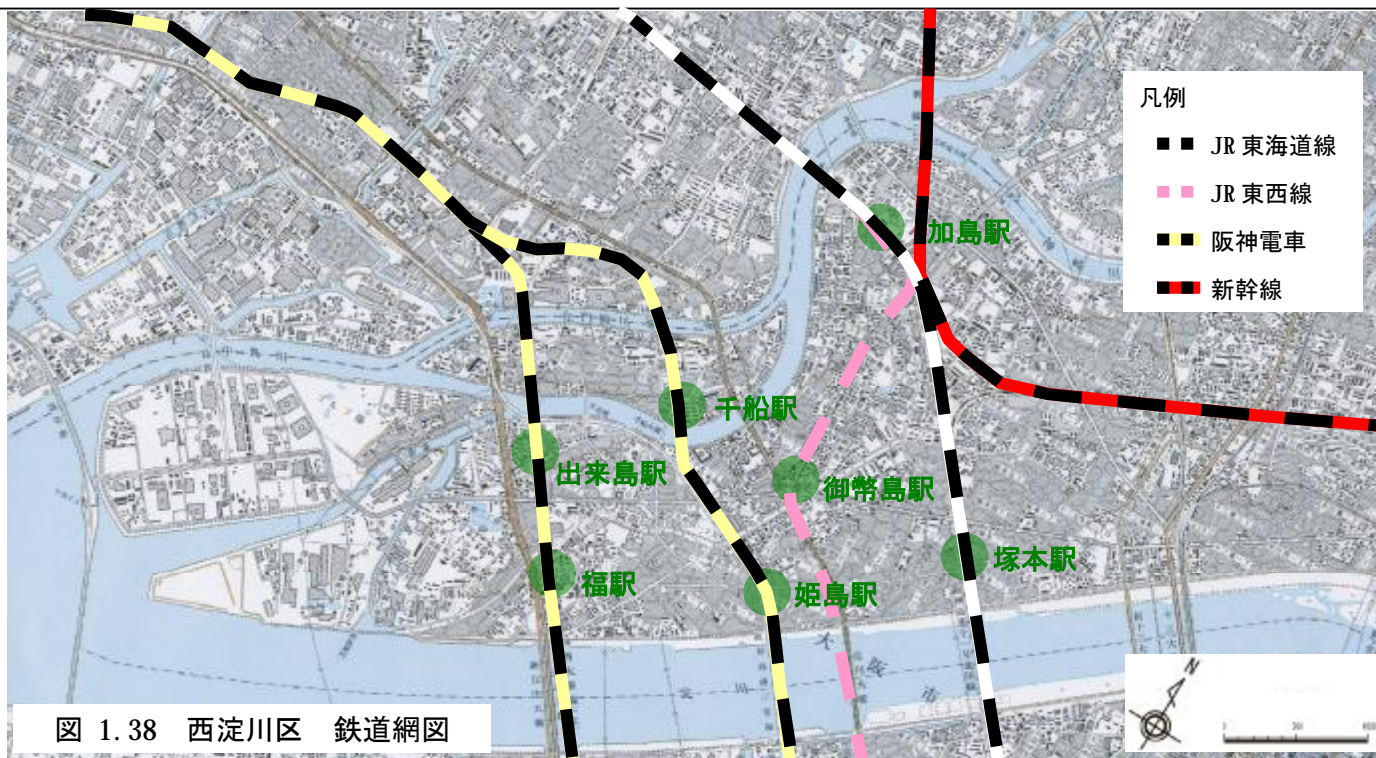


図 1.38 西淀川区 鉄道網図

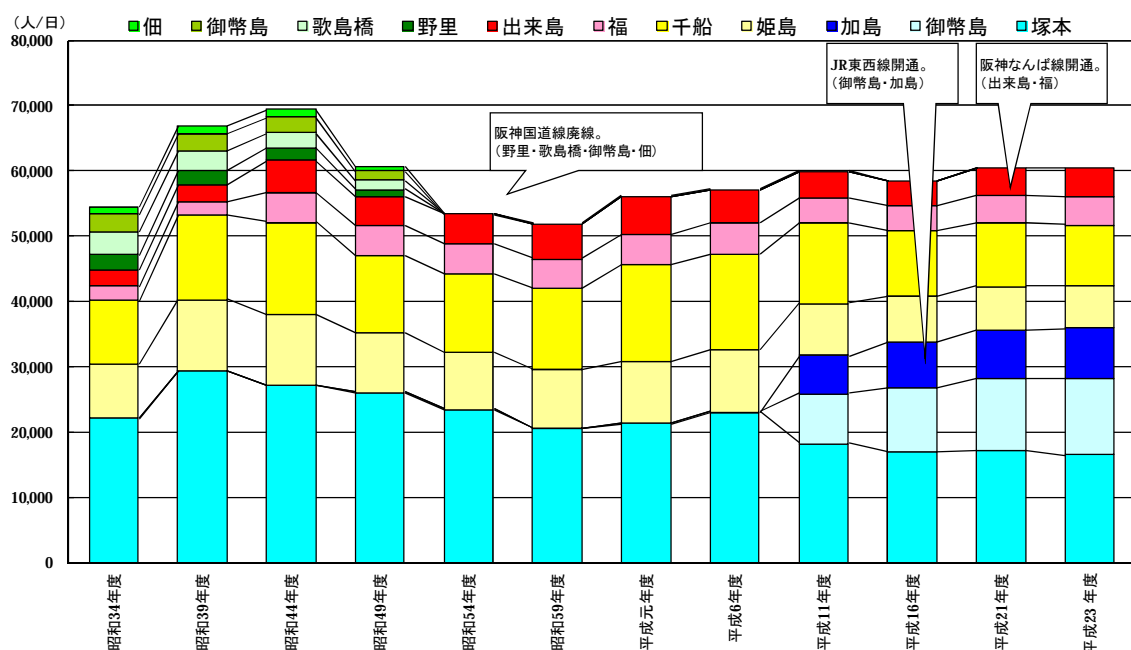


図 1.39 鉄道利用の変遷 (乗車人数)

出典：昭和34年～平成24年度；大阪市統計書

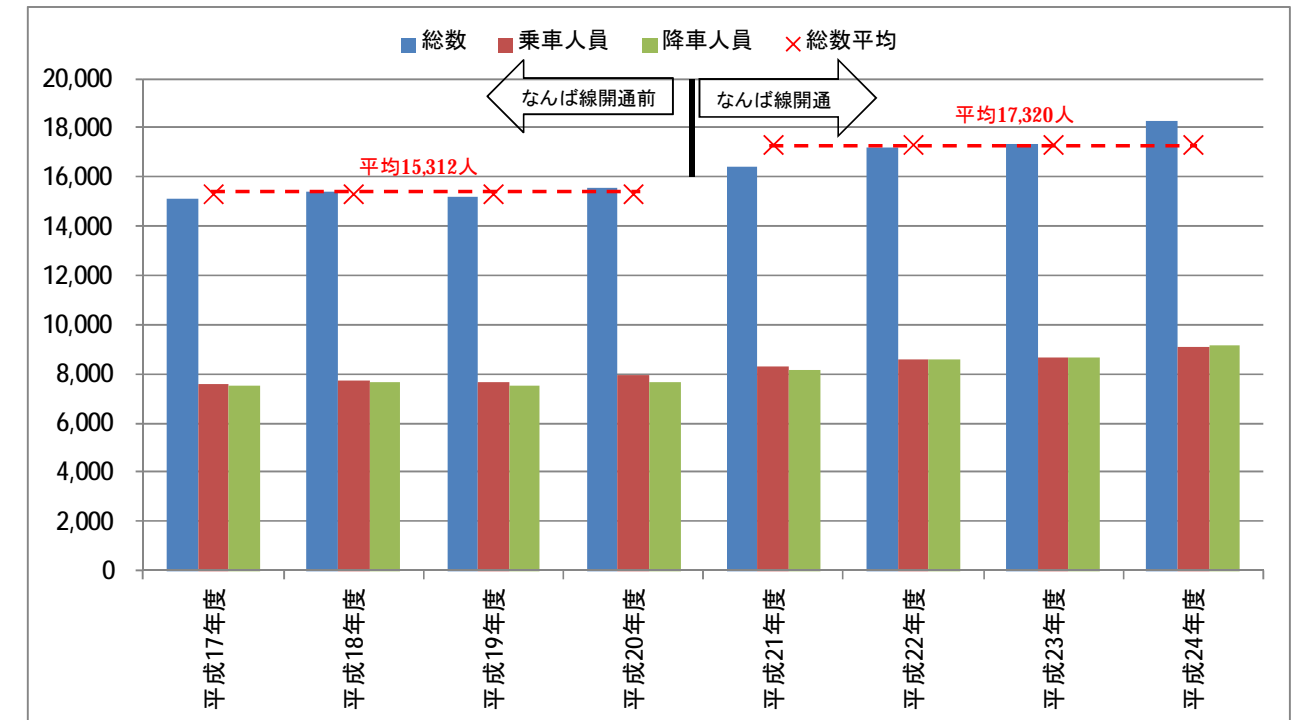


図 1.40 「阪神なんば線」開通前後の福駅及び出来島駅の利用客比較

③ バス

現在、西淀川区には、大阪市営バスおよび阪神電鉄バスが運行しています。大阪市営バスでは、西淀川区役所近くの歌島橋バスターミナルを中心に区内各地区を連絡する路線網となっており、南北方向に限られる鉄道を補って、東西方向の交通手段となっています。また、阪神電鉄バスは、甲子園方面から野田阪神を結ぶ国道2号を通る路線があります。なお、平成9年3月まで竹島を通る阪急バスの路線もありましたが、JR東西線の開通と同時に廃止されています。

図 1.41 大阪市営バス路線図

出典：大阪市交通局ホームページ

